



愛知県立小牧特別支援学校における DXハイスクール事業

R6.11.13 全国肢体不自由教育研究協議会校長会研究協議会

愛知県立小牧特別支援学校の紹介



愛知県北西部に位置する肢体不自由
単独校

- ・ 全校児童生徒 130名
(通学生110名、訪問教育生20名)
- ・ 2026年4月 知的障害特別支援学校の
教室不足解消のため、知肢併置校に！
- ・ 高等部生徒 35名
(通常学級14名 重複学級14名 訪問
学級7名)

DXハイスクール事業とは

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和5年度補正予算額

100億円



現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

- 支援対象：公立・私立の高等学校等
- 補助上限額：1,000万円/校（1,000校程度）
- 補助率：定額補助

○求める具体の取組例

- ・情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- ・情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置（文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換、コースの設置等）
- ・デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- ・デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ・高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ・地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- ・専門高校において、大学等と連携したより高度な専門教科指導の実施、実践的な学びを評価する総合選抜の実施等の高大接続の強化

○支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等

デジタル等成長分野の学部
・学科への進学者の増



- ・大学段階における理工系学部
・学科の増
- ・自然科学(理系)分野の学生割合5割目標
- ・デジタル人材の増

成長分野の
担い手増加

【事業スキーム】

文部科学省

補助

学校設置者

(担当：初等中等教育局参事官付（高等学校担当）)

DXハイスクール事業とは

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）事業趣旨



Society5.0の到来

デジタル技術が目まぐるしく発展し社会の在り方そのものがこれまでとは非連続といえるほど劇的に変わり、複雑で予測困難定型的業務や数値的に表現可能な程度の知的業務をAIやロボットが代替
⇒ **情報技術を活用し、自身の興味・関心に基づき設定した課題の解決を通じて新たな価値を創造する人材の育成、デジタル等成長分野を支える人材の育成**が求められている

そのためには、理系科目や文理横断的な学びの充実を前提として、

- ・創造的な問題解決を目指し**情報や情報技術、ICT機器について深く理解し、自らの学びに取り入れること**
- ・**情報技術、ICT機器を活用した問題解決や探究的な学び**において、課題を設定し、解決策を企画するにとどまらず、**実行出来る形にすること** が必要



〔
・義務教育段階でGIGAスクール構想
・高等教育段階で大学・高専機能強化支援事業、
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
などによる取組が進展
〕

DXハイスクール採択校において、

- ・**情報Ⅱ等の開設・実施**
- ・ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等の**ICT機器整備・活用**
- ・大学や企業等との連携による**外部専門人材・コンテンツの活用** 等を実施



デジタル等成長分野の学部・学科への進学者の増・成長分野の担い手増加

(担当：初等中等教育局参事官付（高等学校担当）)

DXハイスクール事業とは

本校では・・・

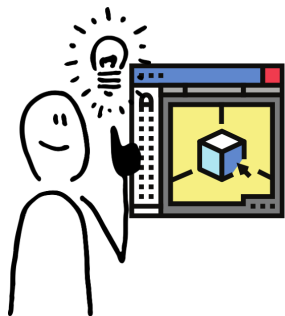
情報Ⅱの開設、受講生との増加は難しい

⇒デジタルを活用した課外活動又は授業を実施するための設備を配備したスペースを整備し、情報、数学、理科、理数、専門教科（情報・理数系の要素を含むもの）等の教育内容の充実、文理横断的・探究的な学びの機会の確保、対話的・協働的な学びの充実を図ること

小牧特別支援学校の4つの取組と導入機器

表現の拡大

アイデアを機器によって具現化（立体物、彫刻、動画、VR）する。



3Dプリンタ、レーザーカッター、
VRゴーグル、360°カメラ、
ドローン、3Dスキャナ

訪問教育、高等学校、他の特別支援学校等、
校外との遠隔通信による交流の幅を広げる。

交流の充実

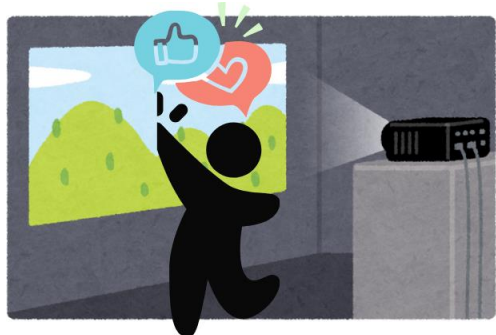


MAXHUB
OriHime
eBoccia

生徒の主体的な学習

主体性への支援

自身の力で機器を操作したり、「やりたい」
を引き出したりし、主体的に活動に参加する。



デジリハ、eBoccia
視線入力装置「Hiru」、Zono

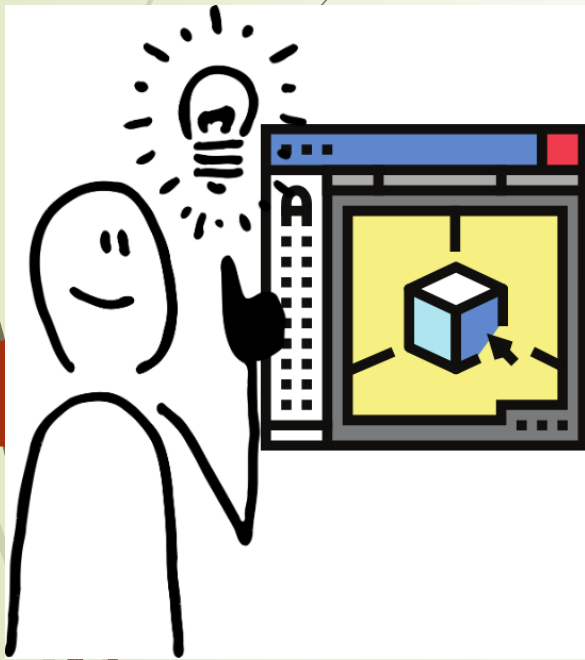
知的障害児教育への 情報教育の充実

教育課程へ「情報」を
位置付ける。
デジタル機器の活用機会
の充実を図る。



表現の拡大

アイデアを機器によって具現化（立体物、彫刻、動画、VR）する。



3Dプリンタ、レーザーカッター、VRゴーグル、360°カメラ、ドローン、3Dスキャナ

- ・ 3Dプリンタやレーザーカッターなどによる各教科、探究活動におけるものづくり
- ・ 360°カメラやドローンを使った動画・VR動画の作成

長期目標

- ・ 地域へものづくり体験の場としての提供や、生徒によるレクチャー
- ・ ものづくり経験を生かした外部評価と社会への貢献

交流の充実

訪問教育、高等学校、他の特別支援学校等、校外との遠隔通信による交流の幅を広げる。



MAXHUB、OriHime、eBoccia

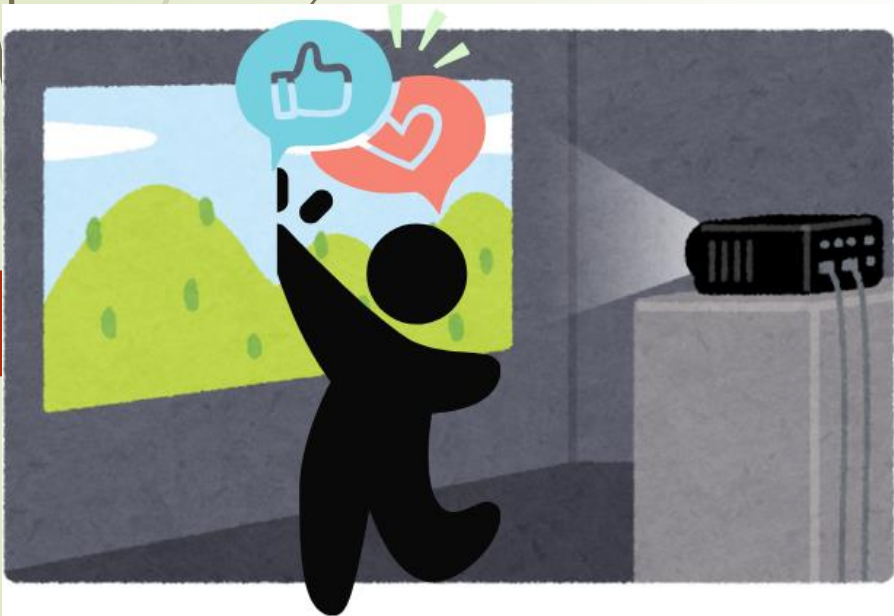
- OriHimeやeBocciaを活用し、登校が難しい生徒の授業参加や交流の充実
- 他校との交流機会や方法の拡大

長期目標

- 外出の代替手段としての余暇の充実
- 学校以外の人とのつながりの拡大

主体性への支援

自身の力で機器を操作したり、「やりたい」を引き出したりし、主体的に活動に参加する。



「デジリハ、eBoccia、視線入力装置「Hiru」、Zono

- ・ゲーフィケーションを取り入れ、主体的な活動を引き出す。
- ・視線入力、スイッチ操作等自身の力で機器を操作して活動に参加する。

長期目標

- ・重度重複障害児も参加できるeスポーツ大会の開催や交流の実施
- ・校内で他部・他学年との楽しい交流の場として設定

知的障害児教育への情報教育の充実

教育課程へ「情報」を位置付ける。
デジタル機器の活用機会の充実を図る。



- ・新規併置する知的障害部門において、「情報」を教育課程に位置付け、計画的に情報教育を実施する。
- ・デジタル機器を活用する機会を充実させる。

長期目標

- ・正しくデジタル機器を活用し、将来、より良い生活が送れる学びを行う。
- ・県内の知的障害特別支援学校全体への情報教育の普及につなげる。

今後の展望

今年度 (R6)

- ・DXハイスクールの本校サイトの立ち上げ
- ・職員に対する機器取扱研修会と共通理解
- ・パソコン室を「DXルーム」へ

次年度 (R7)

- ・本校のDXハイスクール計画や活用の様子の報告会及び体験会
- ・夏季休業期間を活用した、生徒主体の地域・保護者対象の体験会開催
- ・AI環境の整備

再来年度 (R8)

- ・知肢併置を生かした「情報」教育の推進、活用
- ・知的部門新校舎に、一部機器の常設

学校運営上の課題


- ・ 担当者や協力職員の確保
情報免許だけではなく、新しい取組に積極的な教員
ICTを使った教材作りが得意な教員
- ・ 高等部に限定した取組
高等部職員の負担感が大きい
成果を実感するまでの時間が長い
- ・ 教育課程に落とし込むまでの理解・説明
新しい取組のねらいを浸透させて、日常的に活用できる
ようにする工夫

学校運営上の期待

- ・ 人材育成 ～人と人とのつながりから始まる～
新しいことに取り組むことで、専門性が向上
外部専門家との連携、研修によるスキルアップ
- ・ 学校の活性化 ～肢体での取組を知的にも～
高等部の取組を小・中学部にも
協働することによる校内の一体感（肢体・知的部門）
- ・ 地域に開かれた学校 ～より地域の学校に～
保護者や地域への活動報告、体験会

自身の願い

- ・ DXハイスクールに取り組むことで、障害に関係なくICTを使って社会で活躍できる児童生徒を育てる
- ・ 高等部だけでなく、小学部・中学部も一緒に、学校全体で楽しむ取組にし、教職員も探求や学びが深まるようにする
- ・ 他の特別支援学校へも広がるよう積極的に発信し、外部との交流も、生徒が主体的にできるようにする



乞う ご期待！

ありがとうございました